



こうちこどもファンド

平成29年度 公開審査会 報告書



平成29年6月18日(日) 13:30~17:00

南部健康福祉センター 2階大ホール



【 目 次 】

開会（13：30～） P2

- ☆開会のあいさつ 高知市副市長 吉岡 章
- ☆審査員等の紹介
- ☆審査の流れ

応募団体によるプレゼンテーション・質疑応答（13：40～） P5

- ☆南海ふれあい応援隊
- ☆旭地区防災食プロジェクト
- ☆にじいろ発見隊
- ☆太平洋学園コミュニティー協力隊
- ☆高知市立久重小学校6年生
- ☆一宮家おもてなし隊

こども審査員による一次判断（14：40～） P17

審査員による公開審議（14：55～） P18

- ☆応募団体への審議
（進行：卯月委員長）

審査結果発表（16：05～） P26

- ☆審査結果発表
- ☆こども審査員からの感想発表
- ☆こどもファンドアドバイザー・こども審査員サポーターからの感想発表
- ☆審査委員長からの講評
- ☆市長あいさつ



【 開 会 】

★開会のあいさつ 高知市副市長 吉岡 章



本日は大変お暑い中「こうちこどもファンド公開審査会」にお集まりいただき、本当にありがとうございます。本日、高知市長の岡崎は公務のため少し遅れて参りますので、市長に代わりまして私がお挨拶申し上げます。

まず、今日は子どもから大人の方までいらっしゃいますが、日頃から地域でのさまざまなまちづくり活動をはじめ、高知市政に対して、ご支援ご協力をいただいておりますことに御礼申し上げます。

こうちこどもファンドは、将来の高知市のまちづくりを担うこどもたちの、自分達のまちをこんなふうにしたいという想いを実現するために平成 24 年度から始まりました。当時高知市では、大人によるまちづくりファンドを実施しておりました。審査員をしている卯月先生や今日アドバイザーで来てくださっている畠中さんに、将来を担うこどもたちのまちづくりの参加は何かできないかと相談をしましたところ、ドイツのミュンヘン市の事業を紹介していただきました。そして卯月先生のご案内で当時の市の職員などでミュンヘンを訪問し、先進的な事業を学びに行き、何度も検討を重ねて、高知方式の「こうちこどもファンド」を立ち上げました。去年までにすでに5回実施いたしまして、40 団体の助成を実現し、すばらしいまちづくり、地域活性化に繋がっております。

例えば、地域の防災をどうしていくかや、高齢者とどう関わっていくかなど地域福祉と人との関わり、地域の食材を発見しながら地域交流などさまざまな取り組みがありまして、高く評価されているところでございます。今年は6団体の応募がありまして、すばらしいプレゼンを期待しております。ぜひ、こういうまちをつくりたいんだという想いをしっかり訴えていただきたいと思います。また、こうちこどもファンドの特徴として、こどもが中心となって審査員をしているところがあります。今年は小学生3人、中学生4人、高校生2人の合計9人のこども審査員が審査をします。ぜひ審査される皆さんも激励する形でお願いいたします。

この「こうちこどもファンド」は今までさまざまな実績がありますけれども、こどもがまちづくりに参加することで、大人も一緒になって応援していく、世代間住民間の交流が生まれ、すばらしい1つの成果となっています。このこどもたちの自分達のまちを良くしたいという想いは郷土愛に繋がり、それが次の高知市の活性化を担っていくこどもたちが育っていくすばらしい取組だと考えております。ぜひこの取組をさらに発展させていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。終わりになりますけれども、こうちこどもファンド審査会開催にあたりまして、大変ご指導をいただきました卯月先生をはじめ畠中さんなど関係者や、準備に携わっていただいた方々に心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。本日はどうもありがとうございます。頑張ってください。

★審査員等の紹介

こども審査員

<u>西本 春菜 (にしもと はるな)</u>	高知北高校3年
<u>溝淵 由希 (みぞぶち ゆき)</u>	土佐女子高校3年
<u>塚崎 史織 (つかざき しおり)</u>	一宮中学校2年
<u>田部 祥一朗 (たべ しょういちろう)</u>	城西中学校2年
<u>宇賀 みくも (うか みくも)</u>	城西中学校2年
<u>森本 向日葵 (もりもと ひまり)</u>	大津中学校2年
<u>勝田 佑 (かつた ゆう)</u>	三里小学校5年
<u>増田 光祥 (ますだ みつよし)</u>	高知小学校5年
<u>永井 知輝 (ながい ともき)</u>	秦小学校4年

大人審査委員

<u>審査委員長 卯月 盛夫</u>	早稲田大学社会科学部・社会科学総合学術院教授
<u>審査副委員長 吉門 文恵</u>	株式会社 ケンジン 取締役・専務
<u>審査委員 梶 英樹</u>	高知大学地域連携推進センター地域コーディネーター特任助教
<u>審査委員 尾崎 昭仁</u>	NPO 高知市民会議
<u>審査委員 神崎 修</u>	高知市市民協働部部長
<u>審査委員 山川 瑞代</u>	高知市こども未来部部長

サポート役

<u>こども審査員サポーター 佃 典高</u>	(高知市教育委員会学校教育課 指導主事)
<u>こどもファンドアドバイザー 畠中 洋行</u>	

協力

NPO法人要約筆記高知・やまもも (要約筆記)

★審査の流れ

- ①応募団体のそれぞれに、助成申請した活動内容について公開プレゼンテーションをしてもらいます。
(持ち時間は3分間)
- ②各応募団体のプレゼンテーションが終了するごとに、審査員との質疑応答の時間を設けます。
(5分間)
- ③公開プレゼンテーションと質疑応答の結果をふまえ、こども審査員9名が、各応募事業について「いいね!」「もう少し質問がある」「もうちょっと!」のいずれの項目に該当するか、一次判断を行います。
- ④一次判断の結果をもとに、助成をするかしないか、こども審査員と大人審査委員が、公開で審議を行います。「もう少し質問がある」「もうちょっと!」にシールが貼られている団体に対して、審査員から再度、質疑応答の時間を設けます。
- ⑤公開での審議後、こども審査員9名が、助成するかしないかについての最終判断を行い、こども審査員の過半数、5名以上が助成すると判断した場合に助成が決定します。
- ⑥審議結果については、公開の場で発表します。



審査をするにあたって こども審査員 西本委員より



こんにちは。私達は今回の審査会をするにあたって、審査ポイントについて話し合いました。これらの審査ポイントは、審査員一人ひとりの意見、提案によってできています。

- ① 活動内容が先のことを含め固まっているか
- ② 地域に役立つかどうか考えているか
- ③ 発表や活動に工夫や個性があるか
- ④ チームのこども中心に意見を出し合っているか

今回の審査項目は「計画性」などの短いワードでなく、具体的にしたのも1つの特徴です。私達は、みなさんの活動を応援したい!という思いで、プレゼンテーションを聞きます。みなさんも、緊張するかと思います。楽しみにしておりますのでがんばってください。

【 応募団体によるプレゼンテーション・質疑応答】

★南海ふれあい応援隊 ～ふれあいで地域を元気にしよう～

これから、南海ふれあい応援隊の発表を始めます。姿勢、礼。

私たちの校区では、南海トラフ大地震が起きると最大で 15mの津波が想定され、校区の60%以上が壊滅的な被害を受けます。そこで、南海中学校では、これまでのNSP 実行委員会の人たちが、「うちこどもファンド」の助成を受けながら、地域の防災活動に取り組んできました。ここでは、「地域の絆は防災の力」として、地域へ出向き、郷土の祭りである「どろんこ祭り」「長宗我部まつり」「秋祭り」などに中学生が参加して、地域を元気づけてきました。でも、まだまだ地域の絆が本当に深まったと実感できていません。

そこで、私たちは、新たに南海ふれあい応援隊を結成し、NSP 実行委員会の意思を受け継ぎつつ、さらに地域の絆を深める取り組みをしたいと考えています。

「もっとお祭りを盛り上げればいいがやないが？」

「う～ん、やってきたけど、絆が深まったと思う？」

「んー。じゃあ、もっと地域の人たちが顔を合わせる機会を持てばいいがやないが？ 絆を深めるには、まずは、顔を知らんとね。」

「じゃあどうする？ 楽しくないと人は集まらんろ？」

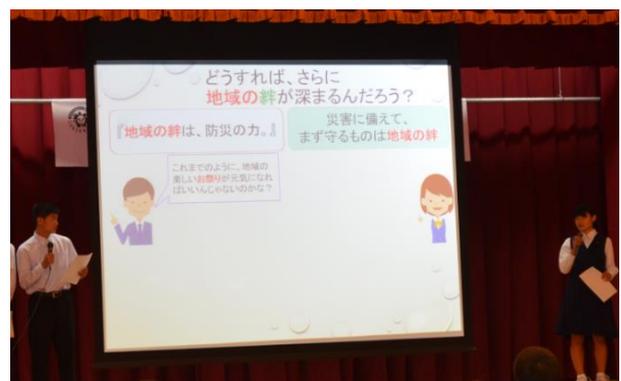
「せっかくやき、僕らが企画するがやき、子どもと大人をつなぐ企画にしよう。」

「それやったら、もっと中学生も参加したら、もっと絆が深まるさね。」

「それじゃ、子どもたちが楽しめる講座をつくって、その指導を大人の人をお願いしようや。中学生もお手伝いならできるし。」

「楽しそうやね。それやったら、校区の学校ボランティア団体の『南海あったか応援団』の人に相談してみようや。どんなことができるか楽しみやね。」

まず、小学生に希望を聞いてもらい、そして、あったか応援団の大人の人たちと相談して、地域の方の中でそれぞれ得意な分野を持った人を紹介してもらい、次のような講座を用意しました。7月には、保育園や小学校に案内を配って希望者を募りたいと思います。私達、南海ふれあい応援隊を中心に、中学生に声をかけて講座のお手伝いをします。そうすることで絆も深まると考えています。



さらに、「ふれあい食堂」を計画しています。あったか応援団の大人に相談すると、「一人暮らしの高齢者の方にも声をかけてみてはどうか」とアドバイスをいただきました。そうすれば、ふれあいがさらに広がることも期待できます。学校で家庭科室を借りて、あったか応援団の方たちやボランティアの方たちと一緒に、私たちも調理や配膳のお手伝いをしたいと思います。これから準備を始めますが、まずは実施できるように頑張りたいと思います。実施できれば、地域の絆づくりには、絶大な効果があると期待しています。

私達はこの取り組みで、地域の絆を深めて、災害犠牲者0の地域づくりを目指したいと思います。

<質疑応答>

田部委員

活動内容の事なんですけど、10月だけ空いてるのでどうしてかなと。

南海

特に理由はありません。

宇賀委員

ふれあい食堂についてなんですけど、料理をする時間を朝食にする理由を教えてください。

南海

学校に朝ご飯を食べて来ない人がいるので、それをちょっとでも減らすようにするためです。

卯月委員長

缶バッジとかイベントベストとかを作るって書いてあるんですけど、缶バッジのデザインとかベストのデザインとかそういうものは考えているんですか？

南海

はい、考えています。

卯月委員長

どんなものですか？

南海

缶バッジは、真ん中に南海中のイメージキャラクター、マスコットのかいりゅうくんを置いてその周りに南海ふれあい応援隊という文字を書きたいと思います。

卯月委員長

昔遊びとか釣りとかバルーンアートとか色々楽しそうなものがあるんですが、いわゆるダイレクトに防災そのもののイベントってなんか少ないような印象があったんですが、その辺はどう考えていますか？

南海

7月に南海中学校で防災フェアという防災だけの取り組みがあるので、それぐらいでいいかなと思って他の取組みにしました。



★旭地区防災食プロジェクト ～地いきのみんなの食事を守るんジャー～

これからプレゼンを始めます。礼、よろしくお願いします。

このプロジェクトを始めようとしたきっかけは、もし災害等がおこった時、命を守ったあと生きていくには水や食料が必要となります。その時に身近な食べ物であるさつまいもを栽培して別に保管していれば、もしもの時に必ず役立ちます。しばらく使われていない畑を活用することで地域の環境もよくなりゴミを捨てたりすることも減るし、花を植える事で散歩をしている地域の方にも喜ばれると思います。ぜひこのプロジェクトを通じて子どもが地域に関われるきっかけを作りたいと思います。旭小学校の地域は狭い道が多く家もたくさんあります。お年寄りも多く近所との助け合いが必要です。そのためには、日ごろからのお付き合いをしておくことが大切だと思います。

これまでの活動を紹介します。

畑の草引きをしてゴミを集め花壇を作りました。活動の目標は私たちの学校の畑でさつまいもを作ります。まずはさつまいもの育て方を勉強します。そして収穫した後、地域みんなで試食会をします。地震が起きた時に頼りになるのは私達か近所の人達だけだと思います。普段から交流をしておくという時に助け合えると思います。保存もしやすいさつまいもを作っておくとお腹が空いた時に助かると思います。

これからの活動予定は、6月は苗を植える準備をします。7月は防災かまどべんちを作ります。8月はさつまいも料理の勉強をします。9月はかまどべんちを使ってみます。10月は地域の皆さんへの防災新聞を作ります。11月は試食会をします。協力をしてくださる皆さんよろしくお願いします！

(寸劇)

何も無い毎日が続いていました。まさか地震など起こる事を誰が考えていたでしょうか。

「地震だぁー！！」

その時がついに来てしまいました。

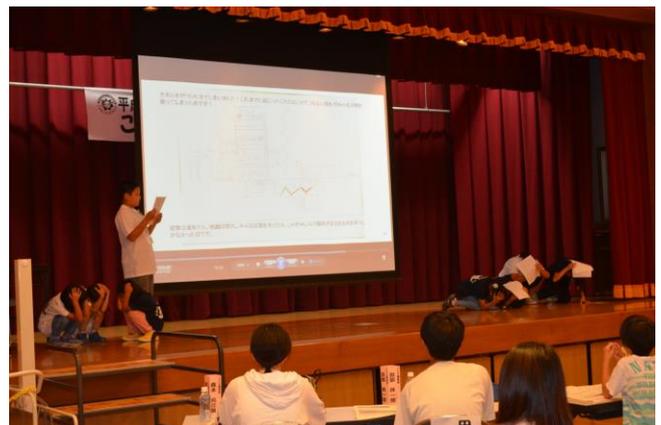
これまでに起こった事のないとてつもない揺れがみんなの町を襲いました。建物は壊れ、みんなは頭を守ったりしゃがみこんで揺れが収まるのを待つしかありませんでした。

「津波だぁー！！」

海岸では津波が襲ってきて(逃げろー！！)みんな声を掛け合い高台へと避難を始めました。火災も発生しました。

何とか命は助かったもののそれからしばらくの間食べ物もなく、みんなはお腹が空いて今にも倒れそうでした。そんな時自分たちが畑で育て保管をしていたさつまいもがありました。それをみんなでおいしく食べ、乗り越えることができました。それからは命を助けていただいたさつまいもをずっと大事に食べました。

以上でプレゼンを終わります。ありがとうございました。



<質疑応答>

宇賀委員

支出の内容についてなんですけど、スタッフTシャツ代 1,200円×30枚ってあるんですけど、この表のメンバーと大人のスタッフの方合わせての17人なんです。その余った分はどうするんですか。

旭

それは声をかけたりして地域の人達と一緒に増やしていきます。

塚崎委員

さつまいもを収穫して保存すると思いますが、さつまいもの保管場所は決まっているんでしょうか？

旭

それについては、決まっています。

増田委員

活動内容の事で11月までは決まっていると思いますが、12月から後はどうするんでしょうか？

旭

それについては先のことの見通して、1年目は学校の畑で勉強し、地域の人達にも知ってもらいます。2年目は1年目を続けて使える畑を探してみたりします。

勝田委員

支出のところに防災学習会の保険料というところがあるんですけど、それは何の保険料なんですか？

旭大人サポーター

保険料に関しては防災学習会といって課外活動になるのでもしその時にケガをしたらいけないので、そのためにかけているのです。

溝渕委員

さつまいもを栽培するって事なんですけど、具体的に誰が水やりするとかはきちんと決まっているんでしょうか？

旭

地域の皆さんや自分たちが水やりをします。

増田委員

チラシや防災新聞などがあるんですけど、それはいつどこで配るんでしょうか？

旭大人サポーター

今回のプロジェクトに地域の方をたくさん呼びたいと思ってまして、学校以外の方に防災新聞という形でこういう活動してるのをお知らせしたいという事で10月に作って配布する予定です。

西本委員

さつまいもの栽培をされるという事ですが、そのさつまいもは具体的にどれくらいの量を作るのかというのは決まっていますか？

旭

50個くらいです。

★にじいろ発見隊 ～こども目線でやさしいまちをつくる～

これからにじいろ発見隊の発表を始めます。姿勢、礼。

私達はこども目線で7つのポイントから地元の町を元気よくします。

どうして7つのポイント？

虹は7色！虹は7色なので7つの視点で町を見て地元の町を元気よくしたいからです。

7つのポイントにはこのようなものがあります。

おもしろい・おすすめ・きけん・ふしぎ・びっくり・おいしい・注目！

どんなことするの？

こんなことします。

こども目線で町を見てみよう、をテーマに町を探検してマップを作り、地域の人と交流していきます。

どうして？

なぜかという地域の方や観光に来た方など、みんなに安心して楽しく過ごしてもらいたいからです。

たとえばどんなこと？

こんなことします。たとえば先ほどの7つのポイントをもとに地図を作ります。

おすすめ・ふしぎ・おもしろいなどのポイントごとに情報をまとめていこうと思っています。実際に地域の方と町を歩き道路などの危ない所をチェックしたり、お店・イベントなどの楽しいことをリサーチしたりしながら地図を作っていきます。また保育園などに行って防災のこと、町での遊び方などを教えていきたいです。

誰が喜ぶの？

こんな人が喜びます。

地域の方や観光に来てくれた方にこの町は楽しい町だね、と喜んでもらうために活動していきたいと思えます。

にじいろの「に」

ニコニコ

にじいろの「じ」

地元の町を

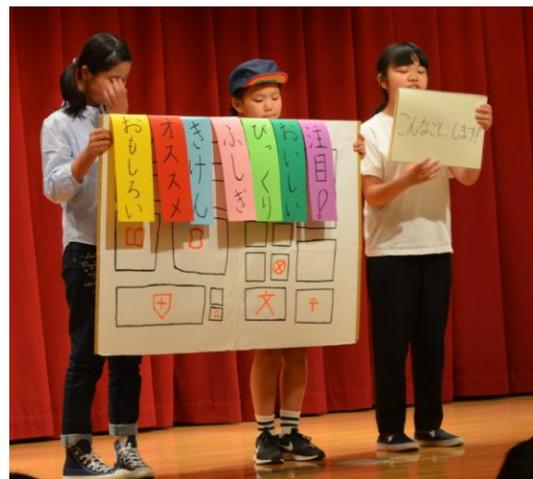
にじいろの「い」

いっぱい

にじいろの「ろ」

ろいろいする

これでにじいろ発見隊の発表を終わります。



<質疑応答>

増田委員

最後の「ろいろい」とはどういう意味ですか？

にじいろ

ろいろいは土佐弁でうろうろするという意味です。

森本委員

今はメンバーが3人だけと思いますが、どれぐらい増やしたいですか？

にじいろ

だいたい最高で20人ぐらいです。

溝渕委員

地図を作っている人に見てもらおうっていう事なんですが、作った地図をどんな人にどんな所に置いたり渡したりしたいのでしょうか？

にじいろ

学校に貼ってもらったり地域の人に渡したりして見てもらいます。

塚崎委員

マップを配布するのを手伝ってくれる地域の方などがいらっしゃるのでしょうか？

にじいろ

マップを私達が配布するんですけど、多人数に配るのは大変なのでマンションの管理人さんとかに渡して掲示板などに貼ってもらおうなどしてもらおうと思っています。

永井委員

分かりやすく情報をまとめるというふうに書いているんですが、どういう情報をまとめるんですか？

にじいろ

ここに出ている7つのポイントをもとに例えば、注目に当てはまるといった情報は注目の項目で色分けなどをしてまとめていけたらいいと思います。

田部委員

活動内容のことなんですが、12月から2月の地域の人と一緒に歩いて再確認とあるんですが、どうやって地域の人に呼びかけるのでしょうか？

にじいろ

6月から8月に一度町歩きをメンバーでするつもりなんですけど、その時にご協力いただいたお店などの方に、地域の人と町歩きをする時にご協力いただけないか呼びかけてみる予定です。

増田委員

地域の人と一緒に歩いて再確認というのは、範囲などは決まっているんですか？

にじいろ

私達が通っている学校の校区にしようと考えています。

宇賀委員

1年で地図を作るというのは難しいと思うんですけど、もし出来なかった場合2年目、3年目も続ける予定とあってありますか？

にじいろ

続けていこうと思っています。



★太平洋学園コミュニティー協力隊

～学内・地域の皆さんとより安心して暮らせるまちへ 被災地から学ぶ防災・被災の対策～

みなさんこんにちは。私達は太平洋学園高等学校の森さとみ・竹澤葉菜・竹澤俊樹・横山海人です。パワーポイント操作の西本真悟です。よろしくお願いします。

私達太平洋学園コミュニティー協力隊は、学校と町内の皆さんとともにより安全に安心して楽しく暮らせる災害にも強いまちを創造する事を目標として、日常的な協力活動を展開し地域との絆を深め、福祉・防災の両面でまちづくりに貢献する事を目的として発足しました。

はじめになぜ今回この活動に取り組もうとしたかということ、高知県は地震がいつ起きてもおかしくない状況にあります。本校でも避難訓練や外部講師の方からの防災に対する話を聞く機会がありますが、実際にいざ地震が起きたとき何が本当に大変になり何が必要なのか、災害の被害をどうやったら減らす事ができるのか、自分たちが被災地に行って実際に体験したいと考えたからです。そして被災地で知った事や考えた事を、その後地域の方々に伝え共有する事で防災に関する意識を高め、学校と地域が協力をして、災害に強いまちづくりを目指す事ができると思います。

この活動は1年間経過で取り組みます。まず7月に、代表生徒2名で現地視察で熊本を訪問します。その際に高校へも訪問し、熊本の高校生と交流をしたいと考えています。8月、9月は現地視察を踏まえて話し合った内容をもとに、防災に関する情報を載せた第1回会報を作成し、校内や地域に配布をします。10月には災害への注意喚起を促すためのティッシュを作成し、11月には高知駅周辺や公民館にて一般の方々に配布できるよう準備を進める予定です。12月には地域の皆さんや本校生徒達の防災意識を高めるために、本校で現地視察の内容など減災についての展示や発表を行います。また、第2回会報を作成し、校内・地域の方々に配布をします。会報については年間2回に分けて作成をする予定です。年が明けて2月、3月では、1年間のまとめとしてリーフレットを作成し、最後には地域の公民館で発表をします。これらを防災・被災に対する活動として災害に強いまちづくりと貢献するとともに、地域の皆さんとの交流の場も広げたいと思います。更に、これらの活動を通して私達自身も成長していきたいと思っています。最後まで熱心にお聞きいただきまして、ありがとうございました。

<質疑応答>

勝田委員

7月の現地視察の代表生徒2名というのはもう決まっているんですか？

太平洋学園

はい、決まっています。

西本委員

7月に熊本の高校を訪問されるという事ですが、7月というともう本当にすぐだなと思ったんですが、具体的に行く高校というのは決まっていますか？

太平洋学園

それは今現在協力を仰いでいるところです。

宇賀委員

活動の時期についてなんですけど、10月、11月、12月の次に2月、3月になっているんですけど、1月は何の活動もしないんですか？

太平洋学園

うちの学校はバイトをしている生徒がかなり多いので、このコミュニティ協力隊でもバイトをしている人が何名かいますし、ちょうど冬休みとかぶっているので少し集まるのが難しいという事で1月ははぶいています。

田部委員

7月の現地視察の熊本の高校訪問で現地の高校生と交流をすると言っていたのですが、具体的にどういった交流ですか？

太平洋学園

被災してどのような物が必要になったか、または被災した時にどのような事で困ったかを聞いたりしていけたらいいなと思っています。

溝渕委員

注意喚起用ティッシュというのが面白いなと思ったんですけども、どのような所でどんな人を対象にどんなふうに配るのかなっていうのを教えてください。

太平洋学園

公民館・高知駅が近くにあるので、そこで今ここにいるメンバーと他のメンバーとで地域の方々に配ったりしたいと思っています。

増田委員

ティッシュは何個作る予定ですか？

太平洋学園

ティッシュは予定では500個ほど作れたらいいなと思っています。

神崎委員

さっきの質問にもありましたけど、ティッシュとか会報を作って配られるという事が出てましたけれども、さっき計画では500作られるということで、学校の方も作ってほしい400ぐらい配るんですかね？予定を見たらそうですけど、地域の方にはただ配るだけなのか、他に情報発信という意味ではなんか交流される予定があるのかどうかちょっと教えていただけますか？

太平洋学園

30年の2月と3月に公民館での発表などがあるのでいいかなとは思っています。

勝田委員

会報作成の地域の方々100名と書いてるんですけど、その100名は1軒1軒尋ねて行くのかそれともどこかで待っていて会ったら配るのかどっちなんですか？

太平洋学園

そちらはまだ具体的な事は決まっていないので、また他のところで打ち合わせしていけたらいいなとは思っています。



★高知市立久重小学校6年生 ～国際色豊かで災害負けない久重地区を作ろう～

国際色豊かで災害に負けない久重地区を作ろう。

私達の久重地区には外国から移り住んでいる人が何名かいます。その方々と私達も外国語を勉強しています。昨年度、久重小学校の6年生が災害に負けない国際的なまちづくりとして1年間行ってきた事を引き継いで、今年度も6年生11名を中心として外国と久重地区を繋ぐ取り組みをしていきたいと思います。久重地区には外国から移り住んでいる方や昔から住んでいるお年寄りの方、農家として働いていらっしゃる方がたくさんいます。昔から住んでいる方々に久重地区の特産物や昔から伝わる遊びなどを教えていただきます。更に外国から移り住んでいる方にはその国の料理や遊びなどを教えていただきます。それらを通してお互いの遊びを紹介してみんなで遊ぶ機会や、地域の食材を使って外国料理を作り地域の方々にふるまうなど久重と世界をつなぐ取り組みができればと思っています。

また、久重地区は山に囲まれた地域で、近々起こると言われている南海地震では土砂崩れで道がつぶれて孤立状態になる心配があります。昨年度は避難後の防災食についての取り組みを行いました。今年度は避難するまでの逃げ地図を地域の人と一緒に歩いて作成します。また、地域の方と防災食の試食会を行い、災害が起こっても安心できる久重地区になるようにします。

また、このような国際交流や防災の取り組みを地域の方や地域外の方にインターネットやチラシなどで発信していければと思っています。多くの方々に久重地区を知ってもらいたいです。久重地域の安全が保障され、にぎやかで楽しい雰囲気地域づくりが進めば久重地区は外国の方や地域外の方に興味を持ってもらえる、魅力ある地域になると思います。これで久重小学校の発表を終わります。

<質疑応答>

増田委員

活動内容で1月の成果物作成というのがあるんですが、どういうものを作成するんでしょう？

久重

成果物作成は7月から12月までに行ってきた活動をまとめた物を作成するつもりです。

田部委員

活動内容の事なんですが、7月と9月に遊びの取材があります。なぜ2回するんでしょう？

久重

7月の食材や遊びの取材は地域の方々に聞くもので、9月の取材は外国の事を聞きに行きます。

永井委員

2月と3月と4月と5月が書いてありませんが、そこは何か予定があるんですか？

久重

修学旅行などで行事がつまっている月もあったら特に何も無い時もあります。

勝田委員

逃げ地図作り費用の地図作り協力者への謝金というのは、協力者というのは例えばどんな方なんですか？

久重

手伝ってくれる人は久重地域自主防災連合会という方々が手伝ってくれます。

宇賀委員

活動内容についてなんですけど、11月にレシピ紹介・試食会とあるんですけど、このレシピ紹介とかで使う料理とかって詳しく決まっていますか？

久重

久重地区で取れた野菜などを使った外国料理を地域の方々にふるまう事になってはいますが、詳しい料理は決まっています。

宇賀委員

それについてなんですけど、久重地区で採れる野菜とかってどんなものが採れるんですか？

久重

久重地区は自然が豊かな所なので畑がいっぱいあっていろんな野菜や果物があるんですが、春には竹の子や山菜があって、秋にはまこも茸とお米が主なものです。

溝渕委員

1月に成果物作成ってあるんですけど、この作成した成果物を発表する場所がありますか？

久重

分かりません。



★一宮家おもてなし隊 ～一宮家はひとつの大家族やき！！～

こんにちは！一宮家おもてなし隊です！

一宮家おもてなし隊では、今年度も地域とのつながりを強め、地域や学校に貢献できる活動を行っていきたくと思っています。今年も生徒会執行部、コーラス部に新メンバーが加わってくれ、35名で6月16日に発足式を行いました。

今年度のテーマも、もちろん「一宮家は1つの大家族やき！！」です。このテーマのもと、今年も活動していきます。そして、今年の重点項目は「心」です。

地震などの災害が発生した時、まず第一は自分と可能であれば、まわりの人の命を守ることです。昨年一宮中学校で実施した講演会「命の授業」で講師の腰塚さんも「自助」が1番大事とおっしゃっていました。現在、日頃からの避難訓練や防災学習で、「自助」に関する力は付きつつあるのではないかと考えています。でもその先を考えたことがあるでしょうか。南海トラフ大地震が起きたとしたら、今までのように暮らすことができなくなる可能性もあります。

そんなとき、普段から心の筋肉をしっかりとつけていたら、災害や苦しい状況に負けずに、生きていくのではないのでしょうか。そして、まわりの人と助け合い、支え合いながら、自分だけではなく、まわりの人の笑顔を取り戻すお手伝いもできると思います。僕たちは、そういうことができるようになりたいと思って活動をしてきました。

そのために一宮家おもてなし隊では今年度、次のようなことに取り組んでいきたいと考えています。

- ① 地域や学校とのつながりを深め、力のある一宮家を目指す。
 - ② 防災学習に取り組む。
 - ③ 様々な方に出会い、その生き方にふれたりすることで「心」について学ぶ。
- ①②は昨年と同様の活動をパワーアップしながら続けていきます。そして今年は、先ほども言いましたが、「心」を強くするため、心の筋肉をつける活動をしていきたいと考えています。

それでは、それぞれを詳しく説明します。

一つ目は、地域や学校に貢献しながら、地域とのつながりを深め、いざというときに助け合える一宮地域をつくる活動です。今年で3年目になる小学校や高齢者施設訪問。今年もすでに1回目の清掃活動を昨日行わせていただきました。また、地域のお祭りやイベントのお手伝い、こども達との交流もすでに予定されています。

二つ目の防災学習は、南海トラフ大地震の危険を身に感じながら生きる高知県民の僕たちには欠かせないものです。生き延び、生き抜く力を養うために必要な学習をみんなで考えていきます。

そして今年は、先ほども言いましたが、「心」を強くするために、様々な方に出会い、その生き方や考え方にふれることで、心にも筋肉をつけ、災害や辛いことにも負けない、強くしなやかで優しい思いを持った心を育てていきたいと考えています。

一宮家おもてなし隊は、みんなでできる事を考え、地域や学校に貢献するため、今までもそしてこれからも一生懸命頑張っていきます！！ぜひよろしくお願ひします！！

<質疑応答>

増田委員

活動内容の5月から6月と1月から2月の高齢者施設訪問というのは行ってどういう事をするんですか？

一宮家

高齢者の方たちと触れ合ったりして関わりを深めていきます。

森本委員

今年でこどもファンドへの助成が3回目になると思いますが、来年からはどうする予定ですか？

一宮家

来年も続けて行きたいと思っています。

宇賀委員

道徳カルタについてなんですけど、どういうカルタの内容なんですか？

一宮家

まだそれは今検討中です。

西本委員

発表お疲れ様です。私も道徳カルタについての質問なんですけど、道徳カルタ作りをしてそれを学校の中で使うのか地域に寄付をして地域の皆さんで使ってもらうのか、その辺りはどのようにお考えでしょうか？

一宮家

学校の道徳の授業を使って全校の皆さんに使ってもらって道徳心をもっと高めてもらうつもりです。

勝田委員

5月から6月とか7月から夏休みとかにあるプロジェクトX α とかいうのは何をするんですか？

一宮家

校内の生活美化委員会という委員会があるんですが、その美化委員会を中心として校内の清掃を目的としたボランティア活動の事です。

吉門委員

7月の夏休みに大島青松園を訪問するとありますが、これは皆さん19名とかのメンバーで行くのか、それともどれくらいの皆さんで訪問なさるんですか？

一宮家

だいたい5名程度で行くのを予定しています。



【 こども審査員による一次判断 】

こども審査員9名が「いいね!」「もう少し質問がある」「もうちょっと!」の3区分で一次判断を行いました。

こども審査員が審査の際に何を重要と考えるかの“審査ポイント”は、こども審査員に対して行う事前研修会の中で、こども審査員が全員で話し合い、決めた項目を使用しています。

【審査のポイント】

- ① 活動内容が先のことを含め固まっているか
- ② 地域に役立つかどうか考えているか
- ③ 発表や活動に工夫や個性があるか
- ④ チームのこども中心に意見を出し合っているか



☆一次判断の結果☆

発表 No.	団体名	一次判断		
		いいね!	もう少し質問がある	もうちょっと!
1	南海ふれあい応援隊	●●●●●● ●	●●●	
2	旭地区防災プロジェクト	●●●●●● ●	●●●	
3	にじいろ発見隊	●●●●●● ●●	●●	
4	太平洋学園コミュニティ協力隊	●●●●●● ●●	●●	
5	高知市立久重小学校6年生	●●●●●● ●●●	●	
6	一宮家おもてなし隊	●●●●●● ●●	●●	

【 審査員による公開審議 】

卯月委員長

こども審査員たちは、先ほど西本さんから紹介していただいた4つの審査基準をもとに、各グループの発表をきいて質問をしました。他の審査会では基準ごとに ABCD などの評価をするところもありますが、そうすると1つ1つの個性があまり浮き彫りにされないので、この会では総合的に見て、「いいね!」「もう少し質問がある」「もうちょっと!」の3つで一次判断をしようと思います。これは今からの議論を進めるために使用するもので最終結果ではありませんので、これを見て喜んだり落ち込んだりしないようにお願いします。もう少しお断りをさせていただくことは、先ほどのプレゼンテーションの場合、各グループの持ち時間を厳密にしていたのですが、今回は1つ1つの内容や質問も違いますので、全く同じ時間配分をしませんのでご理解いただけたらと思います。それでは、トップバッターの「南海ふれあい応援隊」からいきたいと思います。

[南海ふれあい応援隊]

もう少し質問があると判断した人が3人います。まず増田君。

増田委員

ふれあい食堂では何を作りますか?

南海

朝ご飯で、おにぎりや味噌汁をつくります。

卯月委員長

私も気になったのですが、どこで誰が用意するんでしょうか?

南海

学校の家庭科室で、自分達や南海あったか応援団のボランティアの方です。

卯月委員長

これまでにやったことはありますか?

南海

ありません。初めてです。

卯月委員長

どこからアイデアが出ましたか?

南海

朝ご飯を食べない人が多いからです。

卯月委員長

そういう調査データがあるんですか、先生。

南海 大人サポーター

昨年度の体力調査の項目の中で、朝食を食べるかという項目がありますが、食べないあるいは時々しか食べないという生徒が30%もいて全国平均の2倍になっています。そういったこともあって、地域の人と関わる中で朝ご飯の大切さも知っていきこうという取組みになります。

吉門委員

学生だけではなくて、地域の方も呼ぶんですよね? だいたい何人ぐらいを想定していますか? というのは食材費に5000円×2と書いてあるので。

南海 大人サポーター

お米は地域で採れたものを寄付してもらい、味噌汁はたくさん来ても大丈夫だと思いますので、声かけをしてたくさんの人にきてもらいたいと考えています。実際何人来てくれるかは今のところ想定していません。



溝渕委員

同じく食堂のことなのですが、朝ということは時間の問題もあると思いますが、どれぐらいの時間に呼びかけて集めるとか工夫はありますか？

南海

朝6時半から集まって準備をします。

卯月委員長

朝調理をして、ご飯を食べて、準備して1限目に間に合うようにということですか。楽しそうでいいですね。それでは次、塚崎さん。

塚崎委員

スポーツや昔遊び教室で大人が教える側となっていますが、大人も教えられる、参加できるものは考えていますか？

南海

子どもと一緒に大人も来るので一緒に楽しめると思います。

卯月委員長

それも南海あったか応援団の方たちの協力をいただいたりするんですか？

南海

そうです。

梶委員

8月～3月までふれあい教室を計画されていますが、具体的にメンバーの子どもたちはどんな役割を担っていますか。また、内容に関して子どものアイデアがどれだけ入っているか教えていただきたいです。

南海

どんなことを教えてほしいか、やりたいかを小学生からアンケートを取って決めました。

卯月委員長

中学生の役割は、それを選んで講師を探したりということ？

南海

例えばミニバスケットボール教室があるんですが、それは南海中バスケ部と一緒に教えたりします。

卯月委員長

そしたら自分達でできることは自分達でやるし、地域の方をお願いしないといけないことはお願いしに行くということですか？

南海

はい、大人の手伝いを僕たちがやります。

尾崎委員

メンバーの大半を中3生がしめていて、2年生が3人ですが、来年度以降にも継続させていくために、1年生とかメンバーを増やす予定はありますか？

南海

生徒会執行部がまた来年もやると思うので大丈夫だと思います。

卯月委員長

部分的にかぶっていかないとなかなか厳しいと思いますが、昨年までNSPですばらしい活動してきたと思いますが、今回のメンバーもかぶっていますか。去年やった人が今年もやるという体制になっていますか？

南海

NSP 実行委員会が3人かぶっているので大丈夫です。



卯月委員長

先のことも考えているということで、期待してます。それではこれぐらいにしようと思います。この後皆さんは最終判断をしますが、現段階で決まったというのならば次へいきます。

[旭地区防災食プロジェクト]

それでは2番目「旭地区防災食プロジェクト」。これももう少し質問があるとした人が3名います。まず西本さん。

西本委員

旭地区防災食プロジェクトの皆さんは、今回応募が初めてですが、来年度以降2年目3年目以降の活動を考えていたら教えてください。

旭

- 1年目は、学校の隣の畑で作り方の勉強をし、地域の方に活動を知ってもらいます。
- 2年目は、使える畑を探してみたり、地域で畑を持っている人の畑を借りて活動したいです。
- 3年目は、活動を継続させていきたいです。

卯月委員長

これは学校としてずっと継続していきたいと考えていますか。大人の方でもかまいません。

旭大人サポーター

今回の活動のほとんどがPTAの方のサポートで、旭小学校の活動の一環ではありますが、地域でやりたいということで、学校はあまり関与していません。

卯月委員長

最近是比较的学校の活動が多い中で、地域での活動というのはすばらしいと思います。次、溝渕さん。

溝渕委員

継続していくことで、活動が広まると水やりや草引きなど畑の管理が大変だと思いますが、増えた畑の管理などはどのように考えていますか？

旭

地域の人と協力して水やりなどをやっていきたいです。

卯月委員長

何か見込みはありますか。大人の方。

旭 大人サポーター

私達の地区はお年寄りの方も多く、畑の知識を持っている方も多いので、皆さんに声をかけて管理していきたいと考えています。

森本委員

いつ団体が結成されたのか、教えていただきたいです。

旭

今年の4月です。

卯月委員長

新鮮ですね。次、大人の委員の方。

山川委員

防災かまどベンチの作成にお金がかかっていますが、防災かまどベンチはどんな物なのかと、その効果について説明してください。

旭

かまどベンチは、れんがを積んで作ります。普段は座るベンチとして、災害時はかまどとして使います。かまどベンチを通して人々の繋がりを深め、災害時は避難の場所となる効果を期待しています。



卯月委員長

防災かまどべんちは、すでに既製品もありますが、手作りってというのがすばらしいですね。作ったことはありますか。

旭

初めてです。大工さんに教わって、地域みんなで作ります。

卯月委員長

失敗もあるかもしれないですけど、みんなで作ることが大事ですね。他に、溝渕さん。

溝渕委員

かまどべんちというのは、どこから発想があったのか教えていただきたいです。

旭

旭の特別支援学校という所にあって、それを参考にしました。

[にじいろ発見隊]

卯月委員長

それでは3番目「にじいろ発見隊」これも2人質問がありますが、まず溝渕さん。

溝渕委員

活動はすごくおもしろいと思ったのですが、メンバーが少人数なので、どんなところから発想を得たのか気になります。

にじいろ

まず、どういふのを作るのかを考えたときに、マップを作ることから広げていきました。

卯月委員長

補足の質問になりますが、メンバーの青木さんは、昨年までは審査員側で活動していた子で、来年は応募したい！ということで応募してもらったのですが、審査員から活動する側にまわった気持ちを教えていただきたいです。

青木

去年で審査員3年目だったんですが、みんなが地域をより良くしようと活動しているのにあこがれて、自分もやりたいと思いました。

塚崎委員

審査委員会では持続性を大事にしていますが、マップを配布してその先どうするのか決まっていたら教えていただきたいです。

にじいろ

今年ではできないと思いますが、保育園や幼稚園に行って、マップをもとに防災のことを教えにいきます。

梶委員

7つのポイントのうち「おすすめ」したい場所がありますか。

にじいろ

友達と遊ぶのに便利な場所は公園があります。

卯月委員長

例えば、具体的な場所がありますか。

にじいろ

かるぽーとの裏にある九反田公園がおすすめです。

尾崎委員

マップを作成して情報をわかりやすくまとめると書かれています、小さなことからお年寄り、高知のことを知らない人に見てもらいたいということですが、わかりやすくする工夫とかはありますか？

卯月委員長

マップは作るのが大変ですよ。誰かお手伝いしてくれる人とかはいますか。

にじいろ

知り合いにデザイナーやイラストレーターの方がいるので、手伝ってもらいます。

卯月委員長

最後の質問ですが、協力してくれる団体で、さえば商店街振興組合がありますが、もうすでにお話していますか。

にじいろ

まだ、これからです。

[太平洋学園コミュニティ協力隊]

卯月委員長

次「太平洋学園コミュニティ協力隊」の質問、西本さん。

西本委員

初めての応募でもう 15 名のメンバーが集まっていますが、呼びかけによって集まったのか生徒会などのメンバーなのか、発足のきっかけを教えてください。

太平洋学園

学校に「DAC」というボランティアサークルがあって、そのメンバーに呼びかけをして発足しました。

卯月委員長

5年前に応募してくれた同じ名前のグループと流的に同じですか。それともあの当時とは違いますか？あるいは全然知らない？

太平洋学園

活動していたことは知っていますが、詳しくはわかりません。

卯月委員長

そしたらほとんどの新規ということですね。次、塚崎さん。

塚崎委員

にじいろ発見隊と同じような質問をしますが、リーフレットを配布してその後どうするのか教えていただきたいです。

太平洋学園

具体的にはまだ決まっていますが、活動を続けていくために、地域の方とコミュニケーションをとっていきたいと思います。

神崎委員

被災地の生の声を聞くのはとても大切なことだと思います。現地の人を講師として呼んで講演してもらう方法もありますが、あえて自ら現地へ行く意義や思いを教えてください。

太平洋学園

12月の学園祭で写真展示を行うのと、百聞は一見にしかずと言いますので、自分たちの目で見て考えたことを大切にしたいと思っています。

溝淵委員

視察は良い方法だと思いますが、次の代でも続けていきますか？

太平洋学園

やっていきたいとは思っています。

卯月委員長

もし可能なら動画をとって見せるなど、帰ってきてみんなに伝えるためのツールを工夫していただければと思います。それともう一つ気になったのが、ポケットティッシュを配ることはあまり聞いたことがないですが、どんなものを入れるか、考えていますか。キャッチフレーズなのか、絵なのか、決まっていれば教えてください。

太平洋学園

デザインはまだ決まっていません。

卯月委員長

アイデアはどこから出たのですか。

太平洋学園

ティッシュは受け取ってもらいやすいということで決めました。

卯月委員長

折りたたんで入れるという方法もあるので、工夫してみてください。

[高知市立久重小学校 6年生]

それでは次5番目「高知市立久重小学校6年生」まず塚崎さん。

塚崎委員

考え方の質問ですが、国際交流と防災は繋がっているとして行うのか、国際と防災別の活動を同時に行うのか教えてください。

卯月委員長

昨年の様子をお話していただいても大丈夫ですよ。

久重

直接的には繋がりはないですが、防災は安心な久重地区、国際はにぎやかな久重地区を目指しているので、結果的に豊かな久重地区に繋がると思います。

卯月委員長

昨年も同じ質問があったと思いますが、基本的には違うテーマだけど、結果的には地域に求められている課題ですね。防災に興味ない子でも国際に興味ある子がいたら参加できるし、国際に興味ない子でも防災に興味ある子がいたら集まると思うので相乗効果をねらっているのではないかとと思いますが、昨年の結果良かったから今年も企画しているんですか？それとも昨年と変わっていることはありますか？

久重

去年と同じです。

卯月委員長

そうですか。今年もより良くしてください。では他に、勝田くん。

勝田委員

費用の中の海外の食材はどうやって手に入れるのか知りたいです。

久重

詳しくはわかりませんが外国の方に食材を手に入れてもらったり教えてもらったりします。

尾崎委員

逃げ地図作りについて、地域探検を行うということですが、子どもだけで行うのか、それとも地域の方々も一緒に探検を行うのでしょうか。



久重

私達を中心となって地域の方と一緒にいきます。

宇賀委員

試食会や交流会はどこで行うんでしょうか？

久重

だいたい小学校の体育館です。

溝渕委員

交流会は別校区の人が参加したりもできますか？

久重

来れる場合は参加できるし、来れない場合はチラシなどで情報発信をします。

溝渕委員

例えば、私が参加したいと思って行けるものなのでしょうか。

久重

参加したい人はぜひ参加してください。

[一宮家おもてなし隊]

卯月委員長

次6番目「一宮家おもてなし隊」の質問、田部くん。

田部委員

7月から夏休みにかけての認知症講習会はどこで開催しますか？

一宮家

しなねの森というところです。

卯月委員長

誰が先生で誰が聞くの？

一宮家

地域のコミュニティの人が先生でこども達が聞きます。

宇賀委員

7月の大島青松園に行くのは、先生も含めて5人で行くんですか。

一宮家

はい、5人です。旅費のことも考えて、行ける人数で行きます。

勝田委員

プロジェクトXαは来年もやりますか。

一宮家

やります。

溝渕委員

費用の講演会の講師料がありますが、10月の講演会のことですか？具体的にどんな人に手伝ってもらって、どんな人来てもらうのか決まっていますか？

一宮家 大人サポーター

実際にお金をもらえないと声をかけれないので、これからみんなで考えて決めます。

溝渕委員

どういった方の人に来てもらうのかメドはついているのでしょうか。

一宮家 大人サポーター

それはちらちらと考えています。



増田委員

高齢者施設訪問の5回の場所は同じですか。

一宮家

変えるときも同じときもあります。

神崎委員

一宮家おもてなし隊は3回目の活動で、小学校や高齢者施設訪問など積極的に活動をされていますが、今回大島青松園へハンセン病のことを学び行って、現地で実際にどんなことをして、帰ってきてどんなことに役立ってますか。

一宮家大人サポーター

まず、実際にお話を聞いてどのような生き方をしてきたのかを学び、帰ってきて文化発表会で発表します。

勝田委員

10月からの地域のイベントはどのようなものがあるか知りたいです。

一宮家

ない月もありますが、お祭りや、しなねの森美術館であるイベントに参加します。

卯月委員長

ちょっと僕から、中学校で道徳教育を取り入れているということで、道徳カルタというのを初めて聞きましたが、どんなものかイメージはありますか。

一宮家

授業で22のカギという道徳で手に入れるカギがあって、それを標語にしてカルタを作ります。

卯月委員長

まちづくりでカルタを作るところは増えてきていますが、これはみなさんが作るんですか。

一宮家

はい。

卯月委員長

読み札や取り札も作るんですか？

一宮家

はい。

卯月委員長

結構大変だよ。がんばってください。

田部委員

地域のお祭りやしなねの森のイベントに参加して具体的にどんなことをしますか。

一宮家

基本的に接待や手伝いをします。

卯月委員長

みなさん、これから最終判断に入ります。何か聞き残したことはありませんか。

それでは、公開協議を終了します。

【 審査結果発表 】

☆審査結果発表 吉門審査副委員長

【審査結果】

南海ふれあい応援隊 9点
旭地区防災食プロジェクト 9点
にじいろ発見隊 9点
太平洋学園コミュニティー協力隊 8点
高知市立久重小学校6年生 7点
一宮家おもてなし隊 9点

助成団体	助成金額
南海ふれあい応援隊	200,000 円
旭地区防災食プロジェクト	200,000 円
にじいろ発見隊	200,000 円
太平洋学園コミュニティー協力隊	176,300 円
高知市立久重小学校6年生	200,000 円
一宮家おもてなし隊	200,000 円



本当に皆さんお疲れ様でした。全団体助成が決まって良かったです。安心しました。

6団体の皆さんのプレゼンテーションは、コーラス隊や寸劇を交えるなど、本当にすごく工夫されていました。中でも旭地区の活動は、地域の小学生から中学生まで幅広い年代の子どもたちが一緒になって行うということで、すごく珍しくて良いなと思います。自分たちが地域の方を巻き込んで活動するという事で、ぜひ永く続けていくためにも楽しんで活動してください。

皆さんそれぞれの工夫があって大変良かったんですが、まだまだ活動内容がはっきり決まってないところとか思いがこう十分伝えられなかったという事がいっぱいあると思います。苦労してやることに意味がありますので、活動の途中でもうしんどいき嫌になる事もあると思いますが、皆さんがこれからいろんな活動や経験をして、来年3月の発表会の時にまたお会いします。その時にはいつも見違えるように皆さん成長してるんですね。ですからこれもまた期待をして、皆さんが本当に有意義な活動ができますことをお祈り申し上げます。本日は本当にお疲れ様でした。おめでとうございます。

☆こども審査員からの感想発表



田部祥一郎委員

審査員4年目になりました、田部です。全団体助成おめでとうございます。今年も期待出来る団体ばかりでした。3月までスケジュールがいっぱい詰まっていますと思いますが、頑張ってください。期待しています。ありがとうございました。



増田光祥委員

こども審査委員2年目の増田です。今年は去年に比べて応募団体は少なかったと思いますが、どの団体も一生懸命プレゼンをしていて良かったなと思います。お疲れ様でした。



勝田佑委員

審査員2年目の勝田佑です。今回は3分の2以上が新しい人だったけど、緊張していたと思うけど焦らずゆっくり発表出来ていたので良かったと思います。頑張ってください。



永井知輝委員

どの発表も頑張っていてすごいと思いました。頑張ってください。



西本春菜委員

皆さん本日はお疲れ様でした。私は今回はじめてこども審査員を務めさせていただいたんですが、一番印象に残っていたのが皆さんのプレゼンの上手さです。高校生の私でもこんなに上手に工夫されたプレゼンはできないと思うくらい、皆さん一生懸命プレゼンをされていてとっても感動しました。来年の3月、活動発表会でお会いするのがとても楽しみです。1年間活動を頑張ってください。今日はありがとうございました。



宇賀みくも委員

第二期から審査員を務めさせていただいています宇賀です。去年、参加出来てなかったんですけど、1年ですごくどの団体さんもグレードアップしていて頑張っていたのですごいいいと思いました。全団体助成おめでとうございます。3月の発表会頑張ってください。



溝淵由希委員

皆さん、お疲れ様でした。全団体助成おめでとうございます。私は初めてだったんですが、思ったよりもすごく考えられていて、プレゼンとかもとても分かりやすく楽しくて、こんなに自分たちから活動してくれる人達がいっぱいいるんだなと思ってすごいうれしく思いました。ここから3月までやるのがいっぱいだと思いますが、この時の気持ちを忘れず全力で頑張ってもらいたいと思います。



塚崎史織委員

初めてこども審査員を務めさせていただいたんですけど、こどもの意見の重要さなどがわかって本当に良かったと思います。皆さんには地域の和を深めていって欲しいと思いました。今日は本当にお疲れ様でした。



森本向日葵委員

審査員4年目の森本です。6団体の皆様お疲れ様です。そしておめでとうございます。今回は私も勉強させられるところが何回もありました。例えば一宮家おもてなし隊さんは、冊子に命の大切さを学ぶと書かれていました。私達はそれが当たり前のように分かっているように思いましたが、そこを改めて勉強するということにすごく意欲を感じられました。さっきの話でもあったように1年間の活動はとても大変だと思います。実際私も何回もやめようと思った時もありました。それでもやっぱり最後は結果が残るのでやっていた良かったと思えると思います。3月の発表楽しみにしています。今日はお疲れ様でした。

☆こどもファンドアドバイザー・こども審査員サポーターからの感想発表



こどもファンドアドバイザー 畠中洋行さん

皆さんお疲れ様でした。長い時間お疲れになったと思います。

アドバイザーというのは3つの段階でアドバイスをするようになっていて、まず1つは皆さんが申請書を書き上げるまでの段階でどうしたらいいかなっていう考え方を一緒に整理をするっていう時にアドバイスに入ったり、それからその次が公開審査、今日のような審査会に向けてどういうふうに発表したらみんなに思いが伝わるかなっていう事を一緒に考える、そして今日皆さん助成が決まりました。実はこっからが僕の出番が必要かなと思っています。

実際計画を立ててみてやりだすと、なかなか上手くいかないとか考えた通りにいかないなって悩みが出て来たりすると思いますし、それから今日もいくつか審査員の方々から質問が出ていたように地域の方とどうやってつながっていくんだろうとか、あるいは具体的に中身をどう広げていったらいいかっていう事にたぶんいろんなところで壁にぶつかったりするかもしれません。そういった時には遠慮なく市役所の方に声をかけていただいてアドバイザーさんを派遣してくださいって気軽に声をかけてください。そしたらその中で皆さんと一緒にまた考え方を整理しながらどうやれば上手くいって事をお手伝いをしていきたいと思っておりますので、これから3月に向けてみんなで一緒に頑張っていきましょう。どうも今日はお疲れ様でした。

こども審査員サポーター 佃典高さん

お疲れ様でした。小学校の低学年から高学年、中学生それから高校生まで幅広い子ども達の一生懸命のプレゼンが聞けて本当にとっても素晴らしいなと、どのグループもそれぞれの地域の事を大事に思って発表されてるな、考えられてるなという事をすごく思いました。

私は審査員サポーターという事ですので審査員の事にも少し触れますけれども、先週1週間前にこの審査員が初めて集まりまして、今日審査するにあたって4つのポイントを、このメンバーでどんなポイントにしたらいいかということで意見をたくさん出し合って、今日4つのポイントを持って皆さんの審査に当たったわけですが、この中には初めて審査をするメンバーも4人いて、そのメンバーも含めてとても緊張したと思うんですけども、皆さんの素晴らしい発表に心を打たれてたくさん質問をさせていただいたと思います。

審査員も頑張りましたし、発表された皆さんが何よりも頑張ったと思いますけども、どちらも本当にこども達を中心にした素晴らしい意見のやり取りで本当に大人の一人として感動したなというふうに思ってるところです。ぜひそれぞれの地域での取り組みを一生懸命頑張っていってください。また審査員と一緒に3月の皆さんの発表を楽しみに待っています。今日はお疲れ様でした。



☆講評

卯月盛夫審査委員長



皆さんお疲れのところですが、最後に感想を述べさせていただきます。今回6件と、これまでより少し少ない気はしますが、それぞれ充実した活動で議論も活発に行われました。

感想の1点目、この制度を6～7年前に企画してから、小学校、中学校、高校が一体になるようにしたいと考えていました。しかし現実には、学校によってやることも違うので、そんなことができるかどうか懸念もありました。今日は、小学生3チーム、中学生2チーム、高校生1チームと比較的小学生が多かった感じがします。しかし、実際にプレゼンや質疑を聞いていると、

みんなきちんと考えて議論もしていたので、今回は小学生が多かったという感じはしませんでした。そういった意味で、小学生が頑張っていたことは、僕は嬉しく思います。

2点目、応募してくれるグループは学校や地域があり、応募数はそれぞれ半々ぐらいがいいですが、学校からの場合は同年代で固まりやすいので出しやすい、地域だと幅広い年齢層で出しにくい、ひょっとしたら活動が長続きするかもしれないし、学校ではできないことができるかもしれないという期待があります。そういった意味で今回は「旭地区防災食プロジェクト」は小学校というより、地域の小学生とPTAの方が中心ということで、頑張してほしいなと思います。もうひとつ「にじいろ発見隊」は小学6年生3人が中心のグループです。メンバーの青木さんがこども審査員であったこともあるでしょう。青木さんはこどもファンドの制度や主旨をすごく理解していて、こども主体3人でチームを作ってきて、6、7年前に企画した時の一つのあり方ですばらしいと思います。3人しかいないのもう少し輪を広げた方がいいという懸念もあるけど、大いに期待したいと思います。

3つ目テーマですが、ここ数年「防災」が多いです。これは高知の今の状況を考えれば当然のことで、もっとやってほしいと思います。ただここ数年見て思うのは、「防災」がテーマなんだけど、プラスαをしてより楽しくしたりして、より参加者を募ったりなど、工夫をしてくれているということです。久重や南海の活動もそうですが、食とからめて、朝食を食べない子がいるという別の側面から行うとてもすばらしい企画で、もっと他の学校や高知市外でもやってほしいし、どんな成果を生むのか期待したいです。今回の団体のうち5グループが防災に関する活動も企画していて、「にじいろ発見隊」は方法論が少し違って、まちを発見しようということで、よかったと思うところは、「こども目線」というところです。なかなか大人はこども目線が何かわからないので、さきほど質問が出たように、公園の話がありました。そういう話が何項目も出てくるのを楽しみにしています。こどもファンドは、こどものまちづくりを応援する制度だけれども、大人が理解していない「こども目線」を大人が学ぶという側面があります。それをぜひ発見していただきたいと思います。

そして、いつも言っていますが、毎年まちづくりの成果品(グッズ)が増えているということです。これはもっと市役所も学んでいただいて、こどもや住民の意見、提案を活かした方がいいです。にじいろ発見隊のマップや、久重の逃げ地図、一宮のカルタなど楽しみにしています。これらのグッズ、缶バッチやのぼり旗、ポケットティッシュ、腕章などをすべて並べたらどんなになるのか楽しみという気がしました。もう一つ期待しているのが、かまどべんちです。既製品は何回か見たこともあり、設置の協力もしたことがあります。自分たちで作るとするのは初めて聞きました。自分たちで作ることによってこどもたちと地域の人がより大事に使うことができるのであれば、市役所もぜひ推進していくのもありだなと思いました。

また、こうちこどもファンドは応募してくれた皆が主役であり、さらに審査をしてくれたこどもたちも主役です。かつて活動したこども達が審査をしたい、あるいは審査をしていたこども達が活動したいと両方体験していくことで、高知のまちをどんどん好きになるということがあるので、今日のこども審査員を9人にも拍手を贈っていただきたいと思います。

最後に、日本のまちづくりのいくつかをサポートして思うのが、高知のすばらしいのは、大人のサポートがきちんとしているということです。こどものまちづくりはこどもの自主性が重要なんだから自分でやれよとなってしまう場合もありますが、そうではありません。所々きちんと大人が助言、サポートしてあげる体制ができつつあるのではないかなと思います。大人サポーターや畠中さんのようなアドバイザーというシステムがあるところは他にはありません。これは高知市役所及びこどものまちづくりを大人が支えるという体制は高知ならではのすばらしいと思います。

さらにもう一つ、こうちこどもファンドは6年目ですが、私は日本のいくつかで高知の宣伝をしていく中で、すばらしいと評価し、何回も公開審査会や活動発表会も見学されて、来月宮城県名取市で「こどもファンド」の2つ目が誕生し、公開審査会が開催されます。仲間ができましたので、いい意味で切磋琢磨しながら協力、訪問し合って交流を重ねるのも良いかも知れません。

☆閉会のあいさつ 高知市長 岡崎 誠也



皆さん大変お疲れさまでございました。こども審査員9名の皆様や大人審査員の方々、それぞれ6チームの皆様やあたたかくサポートいただいた関係者の皆様に大変感謝申し上げます。また6チームは今回プレゼンが大変よかったとして提案が採択されまして大変よかったと思います。感想はそれぞれ述べていただいたので重ねて申し上げますが、こどもファンドは今年で6年目になります。

私も職業柄各地域の学校へ行ってこどもさんの発表を聞く機会がそれぞれありました。どこの地域もすばらしい発表をされたので、これをどうにか高知市のまちづくりに活かせないかと、当時卯月先生に相談させていただきまして、今の仕組みを作っていただきました。6年目で1つの形は見えてきていますけれども、継続してそれぞれの世代に繋げていくことがものすごく大事です。5年6年で終わってしまうと糸が切れてしまいますので、これだけそれぞれの世代がバトンタッチしていただくと、すばらしいまちづくりになることを確信しています。

そのためにはいろんな人の理解が重要です。こどもや地域の大人の方々、卒業生から次の世代の在校生の方たちへと、そういう意味ではこどもさんの力もお借りしますが、それぞれの皆様にご支援をお願いいたまわりまして、最後のご挨拶とさせていただきます。

資料編

★高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱

★平成 29 年度公開審査会アンケート結果

- 一般来場者
- 応募団体向け（対象：子ども）
- 応募団体向け（対象：大人サポーター）

高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱を次のように定める。

平成24年4月1日

高知市長 岡崎 誠也

高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、高知市子どもまちづくり基金条例（平成24年条例第23号）第1条に規定する基金の設置目的を達成するため、高知市子どもまちづくり基金助成金（以下「助成金」という。）を交付することについて、補助金等の交付に関する条例（昭和29年条例第19号）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(助成対象団体)

第2条 助成金の交付の対象となる団体（以下「助成対象団体」という。）は、次に掲げる要件のすべてを満たす団体とする。

- (1) 本市に在住又は通勤若しくは通学している18歳以下の子どもが3人以上いること。
- (2) 団体の責任者及び監査として、20歳以上の大人が2人以上いること。
- (3) 活動の目的が明らかであり、当該助成に係る事業を自主的に行えるものであること。
- (4) 複数の世帯で構成される団体であること。
- (5) 過去に、同一の事業についてこの要綱に基づく助成金の交付を3回以上受けていないこと。
- (6) 団体の運営に関する規約、会則等を定めており、適切な会計処理が行われていること。

2 前項の規定にかかわらず、助成対象団体が、高知市事業等からの暴力団の排除に関する規則（平成23年規則第28号。以下「規則」という。）第4条各号のいずれかに該当すると認める場合は、助成金の交付の対象としない。

(助成対象事業)

第3条 助成金の交付の対象となる事業（以下「助成対象事業」という。）は、本市内において、子どもが主体となって取り組むまちづくり活動に係る事業とする。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる活動は助成対象事業としないものとする。

- (1) 営利を目的とする活動
- (2) 宗教的又は政治的な活動
- (3) 学校の授業の一環として行う活動

(助成対象経費)

第4条 助成金の交付の対象となる経費（以下「助成対象経費」という。）は、助成対象団体が行う助成対象事業に要する経費とする。

(助成金額)

第5条 助成金額は、助成対象経費の額を限度として予算の範囲内において、市長が認める額とする。

(助成金の交付申請)

第6条 助成対象団体は、助成金の交付を受けようとするときは、助成金交付申請書（様式第1号）に、必要書類を添えて、市長に申請しなければならない。

(助成金の交付決定)

第7条 市長は、前条の申請があったときは、その内容を審査し、助成金の交付の可否を決定し、適当と認めたときは助成金交付決定通知書（様式第2号）により、適当でないと認めたときは所定の助成金交付却下通知書により当該申請をした助成対象団体に通知するものとする。

2 市長は、助成金の交付決定に際し、必要な条件を付することができる。

(交付申請の取下げ)

第8条 前条第1項の規定により助成金の交付決定を受けた助成対象団体（以下「助成事業者」という。）は、その内容又はこれに付された条件に不服があり、交付申請を取り下げようとするときは、当該交付決定の通知を受けた日から2週間以内に、その旨を所定の助成金交付申請取下届出書により市長に届け出るものとする。

2 前項の規定による申請の取下げがあったときは、当該申請に係る助成金の交付決定はなかったものとみなす。

(変更承認等)

第9条 助成事業者は、助成金の交付決定を受けた事業（以下「助成事業」という。）について、事業内容を変更し、中止し、又は廃止しようとするときは、あらかじめ助成事業変更等承認申請書（様式第3号）により、市長に申請し、その承認を受けなければならない。

2 市長は、前項の申請があったときは、速やかにその内容を審査し、変更等の可否を決定し、所定の助成事業変更等承認（否認）通知書により当該申請をした助成事業者に通知するものとする。

(実績報告)

第10条 助成事業者は、助成事業が完了したときは、速やかに実績報告書（様式第4号）に、関係書類を添えて市長に報告しなければならない。

(助成金額の確定)

第11条 市長は、前条の報告があったときは、速やかにその内容を審査し、助成事業の成果が助成金の交付決定の内容及びこれに付した条件に適合すると認めるときは、交付すべき助成金額を確定し、助成金額確定通知書（様式第5号）により助成事業者に通知するものとする。

(助成金の交付請求及び交付)

第12条 助成事業者は、前条に規定する助成金額の確定通知を受けたときは、助成金交付請求書（様式第6号）により市長に助成金の交付を請求するものとする。

2 市長は、前項の請求があったときは、速やかにその内容を審査し、適当と認めるときは、助成金を交付するものとする。

(助成金の概算払)

第13条 市長は、助成事業について必要があると認めるときは、助成金の概算払をすることができる。

2 助成事業者は、概算払を受けようとするときは、助成金概算払請求書（様式第7号）により、市長に請求しなければならない。

(助成金の交付決定の取消し)

第14条 市長は、助成事業者が次の各号のいずれかに該当したときは、助成金の交付決定を取り消すことができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により助成金の交付を受けたとき。
- (2) 規則第4条各号のいずれかに該当することとなったとき。
- (3) 助成金を助成事業の目的以外に使用したとき。
- (4) 助成事業の実施方法が不相当と認められるとき。
- (5) 助成事業を中止又は廃止したとき。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、助成金の交付決定の内容又はこれに付した条件その他この要綱に基づく命令に違反したとき。

2 前項の規定は、助成事業について交付すべき助成金額の確定があった後においても適用があるものとする。

3 市長は、第1項の規定による取消しをしたときは、所定の助成金交付決定取消通知書により、助成事

業者に通知するものとする。

(助成金の返還)

第15条 市長は、前条第1項の規定に基づき助成金の交付決定を取り消した場合において、助成事業の当該取消しに係る部分に関し、既に助成金を交付しているときは、期限を定めて、その返還を命じなければならない。

2 市長は、助成事業者に交付すべき助成金額を確定した場合において、既にその額を超える助成金を交付しているときは、期限を定めて、当該確定した助成金との差額の返還を命じなければならない。

(調査等)

第16条 市長は、助成事業の適正な執行を確保するために必要な限度において、助成事業者に対し、書類の提出若しくは報告を求め、又は必要な調査をすることができる。

(整備保管)

第17条 助成事業者は、助成事業に係る帳簿及び関係書類を整備するとともに、助成事業の完了した日の属する年度の翌年度から起算して5年間保管しなければならない。

(その他)

第18条 この要綱に定めるもののほか、助成金の交付に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

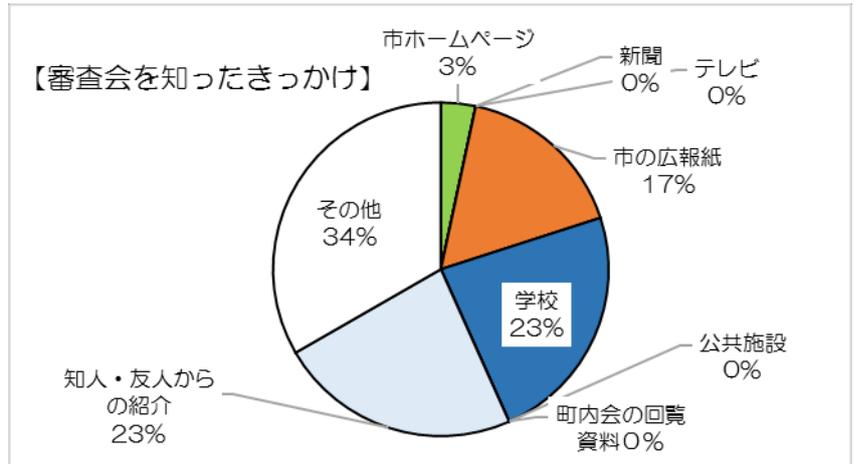
この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

平成 29 年度公開審査会 【一般来場者アンケート】

問1 公開審査会について何で（どこで）知りましたか。

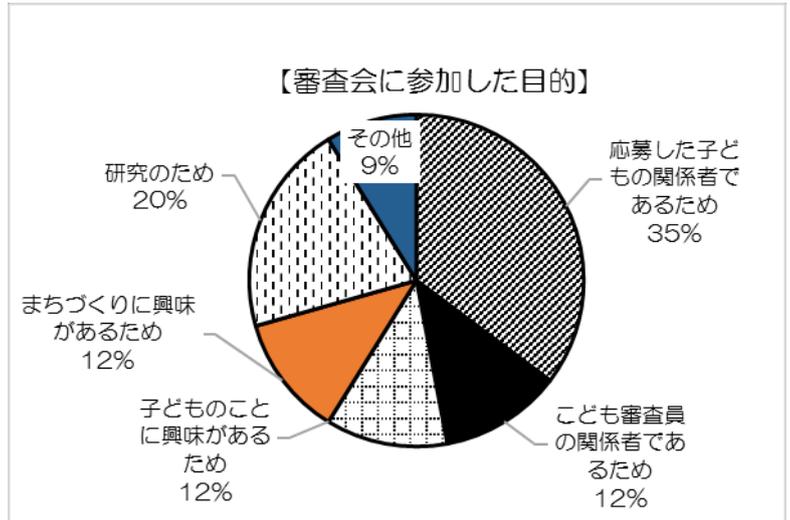
回答数 30 人

- 1 市ホームページ 1
- 2 新聞 0
- 3 テレビ 0
- 4 市の広報誌 5
- 5 学校 7
- 6 公共施設 0
- 7 町内会の回覧資料 0
- 8 知人・友人からの紹介 7
- 9 その他 10



問2 公開審査会に来た目的は何ですか。（複数回答可）

- 1 応募した子どもの関係者であるため 12
- 2 こども審査員の関係者であるため 4
- 3 こどものことに興味があるため 4
- 4 まちづくりに興味があるため 4
- 5 報道・取材のため 0
- 6 研究のため 7
- 7 その他 3



問3 こうちこどもファンドについてどのような印象を持ちましたか。

- ・ 地域のことを考え、自ら活動するいい機会、画期的な取り組み
- ・ こどもの素直な想いを支える素敵な大人がいるところに高知のあたたかさを感じた。
- ・ どの団体もしっかりとした考えを持っている
- ・ こどもたちが真剣に向き合っている
- ・ 革新的だが、100%こどもの意向ではない団体も見受けられたので落胆した。
- ・ こどもの活動を支える大人のサポートが必要
- ・ 発表も審査もレベルが高い
- ・ 大人が裏方という構造がしっかりしている
- ・ 高知の未来に繋がる良い活動
- ・ 毎年見ているが、どの団体もいつも似た内容だった
- ・ こどもがやりたいよりは大人がやりたいことをやらせている内容が多い感じがした
- ・ 審査員を経験し、自分も活動したいと思ったという事例は良いと思った

問4 本日の審査会進行ついて何か改善したほうがいいと思うことはありましたか。

- ・審査結果が後ろの席から見えるようにしてほしい
- ・一般の参加者から意見を聞く機会もあったらいい
- ・会場の換気をしてほしい、子どもたちを飽きさせない工夫が必要
- ・質問がちぐはぐにならないように、打ち合わせや指導が必要
- ・発表時間が短すぎるため、早口になって聞きづらい
- ・マイクの受け渡しが大変そうだった
- ・大人審査員について、一般の人も募ってはどうか
- ・公開協議について、審査員が団体に背を向けているよりは、向かい合って顔が見えるような配置にしたらいと思う
- ・質問内容が、活動を理解するための質問だったか疑問なところもあった
- ・企画内容より発表レベルで評価が決まるのはもったいない

問5 子どもが審査に加わることをどう思いますか。

- ・素晴らしい、画期的
- ・子ども目線の審査をすることで大人が気づかないことが明らかになってくるので、皆が満足するまちづくりにおいて大切
- ・審査員と団体の子どもたちが関わりを持つことで良い刺激を受けると思う
- ・活動することもたちと同じ目線で考えることができている
- ・審査員としても応募団体としても、参加することで成長の場になっている
- ・公開協議で、活発な意見交換もあってよかった
- ・質問の答えに対して、すぐ「わかりました」だけを言うのではなく、もう少し言葉をかけたり、つっこんでほしい

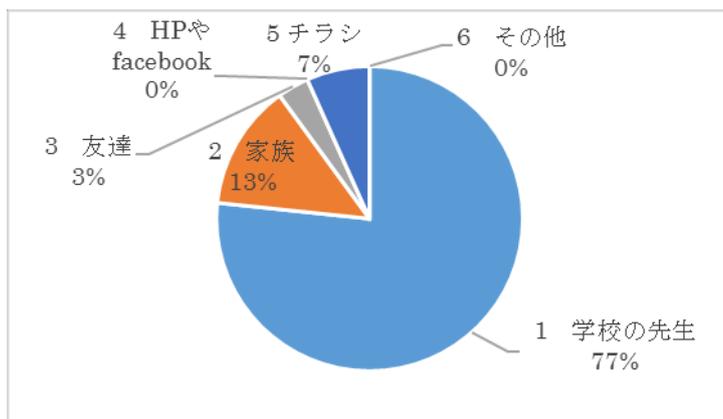
問6 子どもファンドの制度についてや、本日の感想など自由にかいてください。

- ・和気あいあいとした雰囲気、発表もわかりやすくてよかった
- ・要約筆記があってすごくわかりやすくてよかったと思う
- ・発表だけでなく、質問部分も聞き応えがあった
- ・子どものうちからまちづくりについて考えたり関わりを持つことで、将来の自分の生き方や高知の未来に必ず役に立つ有意義な制度だと思う
- ・鋭い質問も多くて良いので、大人のファンドの審査に子どもの意見の導入も考えてみたらと思う
- ・税金を使ってやる内容としては疑問を持ちたくなる内容もあるので、目的と活動内容が合致しているかももう少し精査する必要があると感じた
- ・予算の妥当性も検討ようにしていったらよいと思う
- ・予算が毎回20万フルのことが多いが、全て必要な経費が精査する必要があると思う
- ・助成金の上限を上げてほしい(30万位)
- ・継続は大事だが、自分達の満足にとどまらないようにしていくところは難しいと思った(公益性)
- ・自分達のやりたいことが自分達の発表で理解が得られて助成を受けられたら、その後の活動も力を入れて行えると思う
- ・学校には自由に使える予算がないので、子ども達が考えた活動に対し助成して実施できることは助かると同時に意味ある取り組みだと思う
- ・HPが見づらいのと、見たい情報がすぐ探せないのが改良すべき

平成 29年度公開審査会 【応募団体向けアンケート（対象：子ども）】

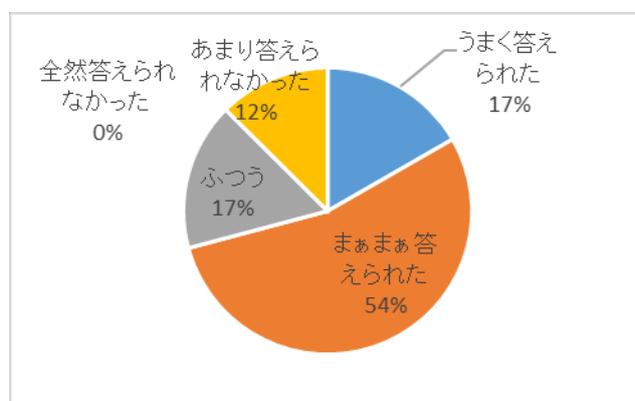
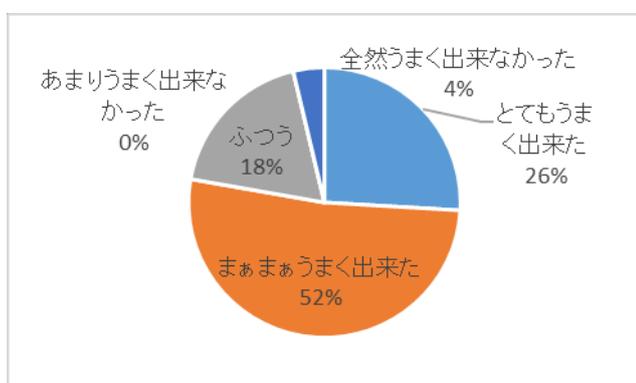
問1 こうちこどもファンドのことはどうやって知りましたか。

回答数 30人



問2 発表はうまくできましたか。

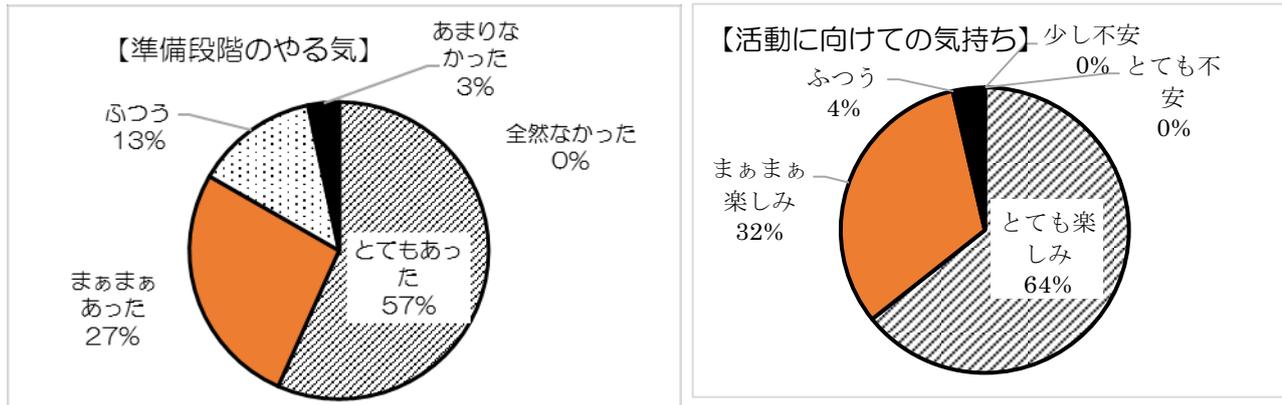
問3 審査員の質問にきちんと答えられましたか



問4 他のグループの発表、質疑応答を聞いてどう思いましたか。

- ・小芝居、ピアノ伴奏が良かった
- ・うまくまとめられていて、わかりやすい発表だった
- ・すぐに答えられている人がいてすごいと思った
- ・大きな声ではっきりしていた
- ・暗記で発表していたし、質問にしっかり答えられていた
- ・コーラスなど工夫していてすごかった
- ・どのグループも個性が出ていた
- ・取り組みについて細かいところまで作られていてすごかった
- ・審査員の人がかかなり詳しくきいてきたので驚いた
- ・シンプルにわかりやすく発表や質疑応答ができていた
- ・想像がつかない発表や質問があった
- ・計画などしっかりしていて考えていると思った
- ・小学生もしっかり答えられていてすごいと思った
- ・防災についての活動が多く、特にさつまいも育てるのは新しくいいなと思った
- ・こども審査員の質問がすごい、そんな質問ができる人になりたい
- ・みんな発表がすごいので自分の発表でよかったかと心配になった

問5 「審査会発表に向けて準備をしているときのやる気」、「プレゼンテーション後、活動に向けての気持ち」として当てはまるものはどれですか。



問6 そのほか、審査会や子どもファンドについて、もっとこうしてほしいことや、これからの活動の意気込みなど自由に書いてください。

- ・審査員が、申請書を読めばわかることを質問していた。申請書からだけでなく、きちんとプレゼンを聞いてその内容からも質問した方がいいと思う
- ・発表の時間を延ばしてほしい
- ・各チームからも質問をして、お互いの活動を深めたい
- ・自分達が活動をがんばって、ずっと続けていってほしい
- ・ふれあい教室を通して子どもから大人参加をし、地域の絆が深まっていけばいいなと思う
- ・地域の人と協力してがんばりたい
- ・予定通り活動が進むようがんばりたい

平成29年度公開審査会 【応募団体向けアンケート（対象：大人サポーター）】

問1 審査会の進め方はどうでしたか。

回答数 8人

- ・時間を区切って行うことで、すみやかな進捗が良かった。
- ・後半の公開協議をもう少し短くした方が良い
- ・質疑応答はこども達の計画をより詳細にするのに役立っている。今日の審査会でもより自分たちの活動について深められたらと思う。あやふやな部分は今後深めていきたい。
- ・こども審査員を中心に進められていてよかった
- ・こども審査員の柔軟な質問や意見がきくことができているが、審査会に力を置き過ぎるとハードルが上がり、応募しづらくなる心配がある
- ・高額な助成金を決めるので、じっくり話し合う必要があるが、プレゼンの時間が短いわりに、全体の時間は長めなので、少しバランスを変えた方が良いのではないかと

問2 これから子どもたちが進める活動について、今どのように思いますか。

- ・子ども達がどれくらい責任感を持って活動できるか期待したい。
- ・発表や質疑応答について、思った以上に子ども達が主体的に取り組み頑張りをみせてくれている。大人の助けが必要な場面もあるが、子ども達の力を信じてできるだけ任せたい
- ・学校の取り組みだけでなく、地域としての取り組みが多くてよかった
- ・どのグループも素直に考えがんばっている子ばかりで、様々な活動で高知家を支える一員に成長してもらえたら良いと思う
- ・子ども達が自主的、主体的に活動できていくことを期待しています。

問3 子どもがまちづくりに関わることで、ご自分の行動や意識にどのような変化があると思いますか。

- ・子ども達が動けば大人達も動いていくと思う
- ・審査会を経て、当事者意識が高まり、とても成長すると思う
- ・まちの一員であるという意識が強まると思う
- ・当たり前と思っていることに、どれだけの人がかかわり、どれだけ予算がつかまれば、どれだけ労力がかかっているかということを経験し、家族や地域の方に対する感謝の気持ちや、社会参画の意欲を高めてもらえると思う
- ・次世代で地域を担うことになることを期待している
- ・子ども達が考え、行動することで、大人達も変わらなければならないと考える機会にもなる
- ・仲間と一緒に行動することで、思いやる心の成長や達成感を感じる精神的な成長を期待したい
- ・何かをしてもらうのを待つのではなく、自分達で動くことや人の役に立つことは自分も嬉しいという体験をして、自主的・自立的な大人になっていけるのではと思う

問4 審査会や「こどもファンド」制度について、もっとこうして欲しいという点は。

- ・企画運営が大変だと思いますが、今後も続けていただければと思います。
- ・審査会や発表会の様子など、冊子だけでなく動画でも資料として見せてもらえるイメージしやすくなると思う。
- ・他団体の活動計画も聞けて、とても参考になる
- ・日曜に開催するならば、もっと時間を短縮していただければ、子どもたちの負担を考えるとありがたい
- ・プレゼン時間を少し延ばし、他の時間を短縮していただければより良いと思う

【発行】

高知市 市民協働部 地域コミュニティ推進課

〒780-8571 高知市鷹匠町2丁目1-43

TEL/088-823-9080

FAX/088-824-9794

<平成29年10月発行>